

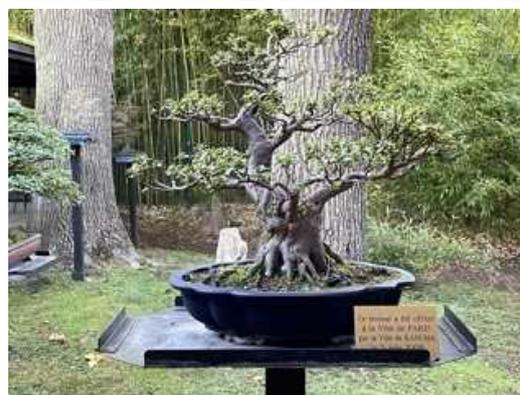
93 小さな盆栽に秘められた生命力 (2022年1月6日)

近年、欧米諸国で盆栽の人気の高まっていると聞きます。実際、パリに来てから何度か盆栽を観る機会がありました。パリ東部のヴァンセンヌの森の中にあるパリ花公園 (Parc floral de Paris) には、1989年にヨーロッパで初めて盆栽の常設展示を始めた盆栽館があります。そもそも、盆栽とはどのようなものなのでしょうか？



「盆」とは薄い入れ物のことで、「栽」とは植物のことです。すなわち、「盆栽」とは入れ物の中で育てられる植物を意味しますが、単なる鉢植えとは異なります。盆栽の愛好家によれば、小さな入れ物の中で自然の風景を表現するものだと言います。盆栽に使われる木は、剪定することで独特の枝ぶりになります。木や砂を使って入れ物の中で自然を表現することは、1000年以上前に中国から日本に伝えられました。そして、日本で独自の発展をして、より芸術性の高い盆栽になりました。

フランスは、欧米諸国の中では早く盆栽と出会った国です。1878 (明治11) 年に開催された第三回パリ万国博覧会の際に、フランスで初めて盆栽が紹介されました。その約30年後に、フランス人の園芸教師が、日本語と中国語以外の言語で初めて盆栽に関する本を著しました。パリ花公園には60近い盆栽のコレクションがあります。コレクションの中で最も古いものは、フランス革命直後の1796年に始まります。2008年に日仏外交関係樹立150周年を記念して、栃木県鹿沼市がここで盆栽展を開催した縁で、鹿沼市がパリ市に寄贈したサツキの盆栽も展示されています。この他、オー＝ド＝セーヌ県のヴァレ＝オー＝ルー公園では、フランスで盆栽の普及に貢献したレミー・サムソン氏のコレクションで見ることができます。



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

200年以上も生きている盆栽があるように、盆栽は何世代にもわたって時間と手間をかけて育てられます。盆栽は、小さな入れ物の中から動くことはありませんが、長い年月を生き抜いてきた力を秘めています。まだ盆栽をご覧になったことがない方は、実際に盆栽を見て、その生命力を感じてみてはいかがでしょうか。